

岡島紳士+岡田康宏「グループアイドル進化論「アイドル戦国時代」がやってきた!

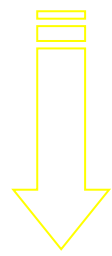
第二章 女性グループアイドル 40年史

女性アイドルの40年を振り返る

評論家 中森明夫『アイドルにっぽん』(新潮社)・・・→ 南沙織=「国産アイドル第一号」

1971年6月1日『17才』でデビュー

女性アイドル40年史



70年代半ば	誕生
80年代前半	黄金期 「アイドル歌手」
半ば～	音楽番組の衰退 → 活動の場移す
90年代	ソロアイドル→CM 美少女 グループアイドル→バラエティー番組
00年代	ソロアイドル→映画女優 グループアイドル→ライブ

70年代

70年代、アイドルの誕生

71年デビュー 南沙織・小柳ルミ子・天地真理 「三人娘」

73年『スター誕生!』でデビュー 森昌子・桜田淳子・山口百恵 「花の中三トリオ」

・・・多くのアイドルを輩出したオーディション番組

・

ピンク・レディーとキャンディーズ 操り人形と生身の女の子 キャラクターとして消費されたピンク・レディー

ピンク・レディーとキャンディーズは、さまざまな意味で対照的

→現在にもつながるグループアイドルの2つの典型となっている

グループアイドルの利点 ①ソロで勝負するにはインパクトの弱いタレントをグループの中で生かせる

ファンにとっては複数の選択肢があり自分の好みのアイドルを選べる

→キャンディーズ(生身の女の子として自己主張⇒大学生のファン多い)

②企画や仕掛けで工夫できる部分が多くタレントの魅力とは違った部分で勝負し

やすい →ピンク・レディー(商品として完成⇒子どものファン多い)

キャンディーズ・・・ファンを巻き込む形のアイドルの原型

ピンク・レディー・・・キャラクター消費型のアイドルの原型 振付が子どもたちの間で大ブーム

だがブームはわずか2年

80年代

松田聖子とアイドル黄金時代

髪型「聖子ちゃんカット」当時の女性の間で大ブーム

「花の82年組」 中森明菜・小泉今日子・堀ちえみ・石川秀美・早見優・松本伊代

84年—菊池桃子 85年—南野陽子、中山美穂

前の世代のアイドルが次の世代のアイドルを用意する、という形は既にこのころから現れ始めている

アイドル幻想の崩壊と歌番組の衰退

85年『なんてったってアイドル』(小泉今日子)、『タやけニャンニャン』から誕生したおニャン子クラブ

⇒アイドルの敷居を下げるとともにアイドルの魅力を支えていた「アイドル幻想」とも呼べるものを壊す

アイドルは特別なものであるという幻想、アイドルは汗をかかない、トイレに行かない、実際にはあり得ないがなんとなくそうであって欲しいとファンが願うものの総体とってよいかも

80年代後半 アイドルの主戦場であった歌番組の人气が低下 「女の子が3分間主役になれる場所」

その場を失ったアイドルたちは新たな活動の場、感情移入装置を模索していく

90年代

宮沢りえとCM美少女の時代

感情移入装置=「どうやって好きになってもらうか」

80年代まではテレビの歌番組がその装置 アイドル=「アイドル歌手」

そして 90年代 ソロアイドルが最も輝いた場所はテレビCM 三井のリハウス 宮沢りえ

00年代

同性向けファッション誌モデルから映画女優へ

00年代のソロアイドルの主戦場は映画

長澤まさみ、沢尻エリカ、谷村美月、宮崎あおい、新垣結衣、夏帆、北乃きい、橋本愛

→多くが同性同世代向けファッション誌モデル出身

90年代CM美少女と00年代映画女優の共通点→アイドルとして生の姿をファンの前に見せないこと

ファンと距離を保つことで高い価値を保とうとした

80年代アイドルを受け継ぐアイドル声優

アイドル声優の強み→アニメという強力な感情移入装置があること

声優はアニメファンがアニメキャラへの愛情を捧げる「代替装置」。「2.5次元」的存在

おニャン子クラブとバラエティの時代

グループアイドル→ 80年代後半～ バラエティ番組へ ひな壇芸人と等価

ピンでは間が持たないので人数をそろえ、芸人にいじられることで存在感を発揮

積極的に自分たちのキャラを見せることでファンの共感を得ようとする方向

おニャン子クラブ→一大ブームとなったが活動期間は2年半

オールナイトフジと秋元康

秋元康→おニャン子クラブ・AKB48

徹底したシロート路線・・・舞台装置さえ整えれば誰でもアイドルになれるということ

アイドルを身近な存在にした。多様なニーズに対応できる強さ。

冬の時代のアイドルグループ

アイドル幻想の崩壊→アイドルがダサイもの、かっこ悪いものになった

88-89年のよる連続少女殺人事件→「オタク」のイメージは最悪に

アイドルを応援するファンにも「オタク」のイメージが定着 ⇒ファンの固定化、タコツボ化

小室哲哉プロデュースと沖縄アクターズスクール勢の台頭

小室哲哉プロデュース→篠原涼子（94年）、華原朋美（95年）、安室奈美恵 ⇒同姓から高い支持

↑アイドル再生工場

・・・→ 延長線上に 事実上はアイドルとして消費されている女性シンガー路線が開拓

鈴木あみ、浜崎あゆみ、宇多田ヒカル、倉木麻衣、大塚愛、YUI、絢香

SPEED（沖縄アクターズスクール出身）→アイドル冬の時代に終止符を打った

アイドルオタクの枠を超えて広範なファン層から支持された

モーニング娘。と夢のオーディションバラエティ

モーニング娘。の成功要因・・・番組（『ASAYAN』）を通じた育成と成長の物語にファンを巻き込んだこと

キャラクタ+物語→感情移入

モ娘（狼）とモーヲタからハロヲタへの移行

匿名掲示板「2ちゃんねる」 ファンはメディアを通して発信される情報を咀嚼&独自の解釈を加え再発信

AKB48、K-POP、そして「アイドル戦国時代」へ

00年代後半 ライブ系のアイドルが台頭

Perfume、AKB48 の大ブレイクを契機に、ライブ系グループアイドルは、群雄割拠、百花繚乱、

「アイドル戦国時代」といわれるほどの活況を見せている